

2011.9.22「国会延長したのに国会を開かない。野田内閣は不誠実だ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

本日は9月22日です。先週から僅か4日間の会期で臨時国会が始まりましたが、我々自民党をはじめとする野党の要請により9月30日まで延長することができました。しかし、国会の会期を延長したのにもかかわらず、今週3日間は国会が開かれませんでした。これはとんでもない話であります。

当初から、我々は今週開かれる国連総会に野田総理が出席することを認めていましたが、総理に随行しない大臣もいらっしゃるのですから、それぞれの大臣が所管の委員会において所信表明して頂いて、質疑を行い、野田内閣の方針を国民の前に明らかにするべきです。内閣が変わったのであればなおのこと当然で、従いまして、野田総理の欠席はやむを得ないとしても各大臣の所信表明を行ってほしい、と衆議院で要求していたのです。ところが民主党は一切我々の要求に応じなかったため、この3日間、国会の会期を延長したのにも関わらず、民主党の拒否によって委員会を開くことができませんでした。来週から衆参両院で2日間ずつ予算委員会を開くことが決まっていますが、本来ならばこの3日間の間に衆議院で各委員会を開き、質疑を行った後に、参議院でも質疑等を行えていたはずです。もし衆議院が今週開かれていたとすれば、来週の月曜日と火曜日に予算委員会が開かれたはずでしたから、委員会の昼休みを利用して参議院においても所信表明を各委員会で行い、水曜日と木曜日に予算委員

会を開いて、金曜日にそれぞれの委員会で質疑を行えば会期を有効に使うことができたのです。このままでは野田内閣の中身を国民の前で検証していくことが危うくなります。

民主党が委員会を開きたくない本音は、彼らが認めているように、急仕立ての素人内閣でありますから所信表明はおろか、質問された瞬間から馬脚を現してしまうことを恐れており、可能な限り委員会を開きたくないということなのです。しかし、民主党が勝手にこのようなことを言っている分には構いませんが、問題なのは素人の大臣を任命した野田総理です。国会の質疑に耐えられない大臣がどうして省庁を動かせるのでしょうか。まさに本末転倒であり、彼らには政権を担っている当事者意識が全くないのです。

それだけに留まらず、前回の国会は 150 日間に 70 日の延長をした 220 日間でしたが、以前から申し上げている積み残した問題が 3 つあります。一つ目が被災地の二重ローンの問題で、この問題を解決しなければ被災地での事業は再開出来ません。この為に新しい復興予算を作るべく自民党が中心となって法案をつくり、参議院で可決することができましたが、衆議院では予算を使うことを財務省から拒否されたために、結局審議が出来ないまま、終わってしまったのです。しかし、今の臨時国会で成案を見るべく申し合わせをしております。二つ目が被災地の私立学校の再建です。これも校舎が震災によって甚大な被害を受けており、建て替えや修繕をしなければ生徒が安全に勉学に勤しむことが

できませんが、現行の制度においては私学の校舎の建て替えなどに補助を出す制度は存在しません。ですから我々が新たに補正予算をつくり、安全な環境を整えようと議員立法で提案したのですが、これも衆議院で審議が出来ていない状況です。その一方で以前からの懸案事項であった朝鮮学校の無償化は菅内閣が退陣のどさくさに紛れて指示しました。朝鮮学校には、積極的に助成を行っていくけれど、窮地に立っている私学には補助出来ないというのでは、一体どこの国政府なのだと言いたくなります。更に三つ目が一番の問題で原子力災害の対策です。我々は原子力災害における初動体制の不備など検証しなければならないことが沢山ありますが、その為には事故調査委員会を国会内に作らなくてはなりません。その理由は、政府の中に作ってしまうと現在の民主党内閣の下では情報操作を行い、結局は正しい情報を国民の前に明らかに出来ないからです。つまり、与野党それぞれが、正しい情報を発表できるよう、独立した立場で調査機関を立ち上げ、しっかりと調査・検証をして欲しいのです。このことも我々は一貫して主張し、次の国会において成案をみると思っていたのですが、依然として見通しが立っていません。要は、始めから彼らは約束を守るつもりなど全くなかったのでしょう。見かけ上の平身低頭、正心誠意に国民は騙され、彼らは高い支持率を得ているようですが、上述して参りましたように実態は全く異なるわけです。そして、国民の皆様方にはこのことを是非とも知って頂きたいと思います。もし彼らが国会を延長したとしても、これらの問題を

解決する気がないのであれば我々は納得できませんし、臨時国会は法律で二度の会期延長を認めているわけですから、再度延長を要求して参ります。

いずれに致しましても、菅内閣から野田内閣に変わりましたが、本質は同じであり、彼らは約束したことを実行する気はないし、国会において所信表明すらしないという前代未聞の馬鹿げた内閣であります。国民の皆様方には一日も早く野田政権の実態を国民に知って頂きたいと思ひますし、我々は彼らの退陣を求めて参ります。今後とも皆様方のご支援よろしくお願ひします。ありがとうございました。